





四月の記

拾<sup>二</sup>々<sup>一</sup>ぬき<sup>初</sup>丁 衣更 若葉 新<sup>二</sup>坊<sup>一</sup> 寺<sup>三</sup>庭<sup>ニ</sup>

桑<sup>二</sup>楸<sup>一</sup> 卯<sup>二</sup>時<sup>一</sup> 松<sup>三</sup>臭<sup>ニ</sup> 郭<sup>四</sup>公<sup>一</sup> 佛<sup>五</sup>舎<sup>一</sup> 濯<sup>六</sup>佛<sup>一</sup> 花<sup>七</sup>寺<sup>一</sup> 牡丹<sup>八</sup>

橘<sup>九</sup>芥<sup>一〇</sup>子<sup>一〇</sup> 杜<sup>一一</sup>若<sup>一</sup> 茨<sup>一二</sup>葵<sup>一</sup> 笋<sup>一三</sup> 桐<sup>一四</sup>花<sup>一</sup> 苔<sup>一五</sup>花<sup>一</sup> 夏<sup>一六</sup>木<sup>一</sup> 立<sup>一七</sup> 茂<sup>一八</sup>リ<sup>一</sup> 兮

下<sup>一九</sup>男<sup>一</sup> 麦<sup>二〇</sup>杖<sup>一</sup> くら<sup>二一</sup>ぬ<sup>一</sup> 九<sup>二二</sup>丁<sup>一</sup> 扇<sup>二三</sup> 不<sup>二四</sup>解<sup>一</sup> 十<sup>二五</sup> 蚊<sup>二六</sup>屋<sup>一</sup> 袂<sup>二七</sup>衣<sup>一</sup> 改<sup>二八</sup>め<sup>一</sup> 十二<sup>二九</sup>丁

蚊<sup>三〇</sup>蠅<sup>一</sup> 十三<sup>三一</sup>丁<sup>一</sup> 蚤<sup>三二</sup> 蟻<sup>一</sup> 虫<sup>三三</sup> 十三<sup>三四</sup>丁<sup>一</sup> け<sup>三五</sup>こ<sup>一</sup> 老<sup>三六</sup> 号<sup>一</sup> 寺<sup>三七</sup> 庭<sup>一</sup> 十四<sup>三八</sup>丁

采<sup>三九</sup>子<sup>一</sup> 鳥<sup>四〇</sup> 十五<sup>四一</sup>丁<sup>一</sup> 鶉<sup>四二</sup> 夏<sup>一</sup> 籠<sup>四三</sup> リ<sup>一</sup> 築<sup>四四</sup> 広<sup>一</sup> 舎<sup>一</sup> 奈<sup>四五</sup> リ<sup>一</sup> 十六<sup>四六</sup>丁

五月の記

皋<sup>四七</sup>月<sup>一</sup> 菖<sup>四八</sup>蒲<sup>一</sup> 十七<sup>四九</sup>丁<sup>一</sup> 粽<sup>五〇</sup> 懺<sup>一</sup> 惟<sup>五一</sup>子<sup>一</sup> 十八<sup>五二</sup>丁<sup>一</sup> 田<sup>五三</sup>植<sup>一</sup> 牛<sup>五四</sup> 極<sup>一</sup> 十九<sup>五五</sup>丁<sup>一</sup> 六<sup>五六</sup>丁<sup>一</sup> 少<sup>一</sup>

合<sup>五七</sup>親<sup>一</sup> お<sup>五八</sup>ふ<sup>一</sup> 茹<sup>五九</sup>子<sup>一</sup> 下<sup>六〇</sup> 合<sup>一</sup> 廿<sup>六一</sup>丁<sup>一</sup> 瞿<sup>六二</sup> 麦<sup>一</sup> 栗<sup>六三</sup> の<sup>一</sup> 廿<sup>六四</sup>丁<sup>一</sup> 藤<sup>六五</sup> 不<sup>一</sup> 藤<sup>六六</sup> 廿<sup>六七</sup>丁<sup>一</sup>







拾 ちいぬき

ちろろよよとちいぬきとつとちいぬき 素志

細虫よまほしきとちいぬきとつとちいぬき 洞大

とまよよとちいぬきとつとちいぬき 曾郎

疎れとぬきとちいぬきとつとちいぬき 八束

生とえくちいぬきとつとちいぬき 史子

ちいぬきとちいぬきとつとちいぬき 八束

更衣

ちいぬきとちいぬきとつとちいぬき 鳳朗

文仲らとちいぬきとつとちいぬき 唯令

ちいぬきとちいぬきとつとちいぬき 茶静

ちいぬきとちいぬきとつとちいぬき 日人

ちいぬきとちいぬきとつとちいぬき 久臧

若葉杉樹

若葉杉樹とちいぬきとつとちいぬき 素志



おしと若菜よお味つれをなすらん  
史子

若菜しく下よおつちも裸る  
洞天

来て掃く新柄の申付橋の上  
茶静

き 簾

海えち影押してきすれ  
史子

名うきせてかかれまはよあを簾  
日人

き竿 潜もそきまてあうやう

き心をえさるきやきすれ  
洞天

茶 椀

きう椀やきして茶を料理船  
一蕙

きうさくや日わきんもき  
一具

茶椀のほれらもあまきり  
茶静

おの 花

おのきやちとらおぬ水えぬ  
史子

うねきや鳴じてぬれ一ト休  
一蕙

おの花よメリつやうう川役水  
洞天



素魚

看屋うまもつしぬ松魚ま  
子す鱈ま扱やしす素魚は  
池口如魚をえせし松魚れ  
素花

寸鳥

茶やとくまよわねをほき  
おきまへ聞とあうはき  
聞自愧やまほほを  
茶辭  
ろ布

一茶よまをさしほき  
郭ときぬとまかま  
時きやうあ塔や小ほき  
おわねてかう後とやう郭  
ほき寸鳥や屏風のきり寺  
書かぬやつきよ帝郭と  
志はらけ強りとあはし  
おのぬをかきとあしほき  
風吟  
一色  
洞天  
日人  
素花  
一蕙  
洞天  
雅令



村さるるち中くならるるあり 茶静  
 郭と余きやれ物あらしくて後 八奈  
 万々年かたぬ茶うほさぬ 一蕙  
 後とていひのさるるはす 風朗  
 村さるるち中くならるるあり 素志  
 天龍を舌てさるるはす 日人  
 郭とていひのさるるはす 史子  
 五月雨のさるるはす 一蕙

村さるるち中くならるるあり 一蕙

迦と土ち神はちかたのさるるはす

村さるるち中くならるるあり 唯令  
 郭とていひのさるるはす 一蕙  
 郭とていひのさるるはす 日人

佛生會催佛

花清堂

雲のさるるはす 風朗  
 雲のさるるはす 風朗



・ 灌佛や汐の押寄り小松原 茶静  
・ 花清堂佛くもくもなつてあり ち布

牡丹

・ 夕べと朝顔うらひほしんま 八奈  
・ ちか牡丹まよひて是ぬ多きの内 素衣  
・ 花一もま実をむすく牡丹 ち布  
・ 花よまて四五日かおほいんま 洞玉  
・ 故の鳴るおほいんまき牡丹 風歌

橘

・ 橘の自づち残臭れは歩初 史子  
・ じつじつとて我まぬらうかま 茶静  
・ 香を端やも橘の香 花 鳳朗

芥子

・ 香しめおほく風けう袖のうち 洞天  
・ 深遠さうけおほく香の香 風歌



春のちさきつゆもなほ 枕え 素心  
笑よけり実をさしあけり 糸 ち布

大御軍と云ひてまゝ

あはれくさあはれくさ

あはれくさあはれくさ

不芥子をばらばらばらはのほ 茶静

虫月のさぬの月とあはれも 八奈

世連て自戒よ控くりの糸 史千

杜若

ひらりとけをあらんかきつさく 日人

何となくの笑ぬはも糸 碓令

杉皮のいてけうあうかきつさく 一色

むらけ眼めううゆく杜若 久蔵

孫ももちて笑やかまはけり 史子

杜若咲てまゝれと例も 咲 日人

雨次の折をあらけ 杜若 素心



苳 葵

田へあきとせして苳や苳のこ  
ふらむお日除よなきや  
苳のぬて埃うをうけし苳くれ  
洞天

竹

竹の子おちちりく  
竹のこお親よまきうておらぬ  
竹やそよう下れ  
竹のこお親よまきうておらぬ

桐 花

花をけ乱がすま桐のそ神  
花をけ乱がすま桐のそ神  
花をけ乱がすま桐のそ神

苳の花

西行の草やまほりきて苳れを  
苳のこお親よまきうておらぬ  
かわく口らぞつちんふし苳花  
松の木の葉くまほりきて苳の花



夏木立

いづつとをえききりきりなむと  
久臧  
きとみきりも変ふ梅のなふと  
史子  
村々れ見えきりならあし  
一色

茂り

特年のすねてうやこ茂りうら  
洞天  
尊れかなよききりきり  
雑令  
ささるるきりきりも茂りうら  
素志

下冨

下冨れあさうらあまうけり  
久臧  
馬士よ起さるるよ下冨  
一色  
下冨へまよ板提く這入る  
風朗

夏秋

涼風りしそ宿のや夏秋  
風朗  
麦刈や糸りえまゆくし仕  
八奈  
麦折や井戸の向ふれもあ  
、



みーう歌

うーう歌のきけううつふにめい

うーう歌やわーうううう人もぬを

うーう歌を吹てとーう諸う神

うーう歌のきーうもをぬもうう

此吹てけうーう歌のきけぬ

うーう歌やうーうおのきけぬ

心寺や歌のうーう歌もぬか

麻

巧てれなう草とすうう麻う神

友なまぬううう麻をきりま

麻替う麻うううや立う神

いさう麻いそて麻は隠しう

浅きて麻買きうおーうけ

あつきて茶ーう麻をきり

酒をぬの目よーう替う麻う



茶廊

余がむくもちくし人の来る茶廊 洞天

浅杯の小拳をまてうらばくま 素心

茶廊よかせていつく茶廊れ 史千

俗又遊い

柄の虫記本茶廊の茶廊を 茶静

茶廊よかせていつく茶廊れ 素心

蚊屋

入るれさうとらまへ 蚊のころ 八茶

蚊の月菴に倦くもなうら 唯令

嬰妻れ入てりうらうら 茶静

蚊の月菴をまてうらばくま 日人

いふ約てあて蚊をり即指さう 史子

茶廊つきて山杯のむくま 茶静

茶帳

残帳もつとる茶廊 茶廊



・ 福の寺よあはそそて古家懐ま

八奈

蚊を火

松山よ焚きてははら蚊をうれ

風朗

橋てえらあつらうら蚊をうれ

史子

阪广寺

・ しのむきて跡なき阪广の蚊をうれ

素心

くらゑて焚うらうら蚊をうれ

八奈

・ 蚊版の併てもなきぬ蚊をうらま

う布

蚊

蚊よ起て焚くは母の寐新うれ

茶静

新くやえらまうせら蚊をうれ

洞天

一ッ追へて四ッ十五ッも啼蚊をうれ

う布

横敷よすれはら蚊をうれ

久藏

かきまうら蚊を川越る毎回うれ

史千

おつらまもれうら蚊をうれ

洞天

・ 蚊の焚くはら燈色む飯懐り

茶静



おぼてー奴のちいさくそありまゝ  
久臧  
薄ぼりの魚う侍ら来るも奴哉  
史子  
菴の雨ほえていゝ奴は言さじ  
素志

蠅

一はち静をなぬれ雨の蠅  
久臧  
蠅去さよ小崎一ツは号れとせん  
茶静  
蠅おの鼻の先なう一埃り  
洞天  
蠅をおとれちいさきんら郎  
素志

蚤

蚤おぬ手残るはて取柄の  
茶静  
おつやよ蚤のは卵や眩度り  
素志  
朝飯を仕とそ赫や蚤疲を  
洞天  
蚤おつかうい形うは穢りあり  
史子

蝸牛

斧入る木は海浜いてかいつら  
素志  
かゝ角をすぼえてぬの蝸牛  
久臧



晴天や厚根くく後々 燈子 一々  
燈子 不刀くく世話もなき安 日人

螢

さし落て 螢 喚さよ 毎の飯 八菜  
ほく 遠く子の 泣き声 糸 洞天  
山も やさぬ 螢の 影うき 風 洞  
あつ 螢 螢 螢 螢 螢 素 芯  
うんと 宿て 打解けて 遠く 螢 日 人

ほく 螢 螢 螢 螢 螢 素 芯  
あつ 螢 螢 螢 螢 螢 素 芯  
うんと 宿て 打解けて 遠く 螢 日 人  
お田 越えて 旅へ 越く 螢 風 洞  
あつ 螢 螢 螢 螢 螢 素 芯

行く子

あつ 螢 螢 螢 螢 螢 素 芯  
うんと 宿て 打解けて 遠く 螢 日 人  
お田 越えて 旅へ 越く 螢 風 洞  
あつ 螢 螢 螢 螢 螢 素 芯  
二毛 衣 畑の いそ 記や けいこ子 一々



老翁

うしろの附子と老を言似たり  
ろ布

老の如く啼老のはしんう那  
史子

老翁

老翁の啼やまきる雨舎り  
素心

老翁をよむおううううう  
史千

雨古鳥

雨古鳥啼を安れ林うな  
雑令

雨そ来て一日啼やかんこ鳥  
素心

三日月如方へうせうう雨古鳥  
洞天

鳥はつて進來そがはうかんこ鳥  
茶部

鳥七日牡丹花口やかんこ鳥  
日人

鳥ら子よかされて啼う雨古鳥  
雑令

雨古鳥如町人を笑ふ口  
一蕙

雨うきう嵐とありぬ雨古鳥  
洞天

啼ぬるも夢れすうかんこ鳥  
史千



葉内表はゆい先うられ示古鳥 風吹  
 遠はあそめくほと近一閑古鳥 日人  
 むしうう小さいとやうかんこ鳥 八采  
 采古鳥本かられなうる鳥をさけ 風吹  
 大うなるたうれもめんこ鳥 史子

鳩

かさもちとあつてえんきかち鳩は 八采

秋ちりり 本はるの鳩の舞り 茶静  
 鳩川えれちかきす本のはら 洞天  
 山は月洞うて返る鳩うり哉 史子  
 鳩をいやはいされあゝ道いやう 久藏  
 鳩をいの眼ぬり津一焼う越 素心  
 いさみまの木の庵や鳩道遠 ミヤウヤウ 一色  
 まはらうしやあんで覚る鳩の火い 風朗  
 鳩を船を煙りまうてとまう 素心



夏公龜

夏簞のや世帯なね〜カ一笑い 史子

夏簞りや大おはよふ壁の穴 ろ布

筑廣舎 空り

見ておらのよしなき筑廣空りん 久城

おかしき空りのなれあゆれ ろ布

五月部

皋月

原の本の底は水澄々皋月哉 鳳朗

云桑子見ゆ休月は星るん 唯令

武士はるうらる新さ月の如 久城

菅蒲

人なる菅蔭のあいる法る哉 可布



雪の下竹舎りよ

まき研うさくさくさくさく

菖蒲湯やまよさけうさくさく

茶静

若くはくはくさくさくさく

唯令

菖蒲湯に入るとや凡ゆるさくさく

一具

あやめさくさくさくさく

風朗

うさくさくさくさくさく

洞天

さくさくさくさくさく

素心

粽

結くさく報謝入るや毎ちき記

一色

世々粽むすま豊はれやう貫ふ

日人

漸えまよ記あーらんと無粽

ろ布

粽も功素うさく料理人

仰天

喰素れおひさくさく粽

史子

粽結くさけうさくさく

素心

子傳くさく結層おる粽ろ郎

風朗



職

麻志れく暗き如く職 日人  
 浪是もぬくまにがろく職 裁 一色  
 既くするれく如く職 かな 洞天  
 押すくえれはほよき職 さま 風朗

帷子

かこむくや謙念の夜れ男より 八条  
 うきくれ本の河よえゆ二階に 茶静

田植

田を植く内戸口と葉よあり 風朗  
 丁よなむい子もまもり田うきさき 日人  
 思ふお田を植てあふ山はく歌 八条  
 植く田はあゆみ 佛問うな 茶静  
 田植えの傘下やさくあふ 洞天  
 暮るくや植くはく田よさあふ 久藏



草如葉よくけておもや田植酒 唯令

流き来る余まのよ苗を植は電 素心

詠あゆみよんそふゆく田植子 史子

二三といさをとらんほ寸辨るぬ 風朗

竹植

牛うゑて酒は酔きり新ッ飯 史千

晴天子植ふる牛の葉うな 万布

植ふ口れむもろく牛よ葉いりぬ 曾歌

今年牛

里川や多水申わく々牛 八菜

合歌

合歌の歌帯仕重しよのきろく 風朗

合歌成るやきし記をたをいぬ 久城

お花

お摘や合歌よまじぬのえしなま 日人

お指の糸うんしと酒いり 万布



茄子

む咲をなうて茄子好きう作なや 久臈  
籠の目をやぬさわうそ初茄子 素志

百合花

赤百合や口行いて花里の犬 八葉  
海鳥の池走よえうと藪の百合 洞天  
百合咲や山嶺志きぬ枕もや 唯令

嬰佳 変

なてしこや振りく度う小傘 史子  
なてしこおすかおあさよ雀もやう 一色

栗木の花

山伏の家まききうと一栗のそ助 一葉  
蒼ももえうに咲きや栗木好む 一  
小くくみや咲てら落る栗の花 洞天  
米櫃めうらも志うと栗の花 一色



藤の花

ふみ花のきけく殆るや三上山 茶静  
七打志や秋風えも路く一却 日人

藤

藤も花は藤はく日かすうな 久藏  
恒うくへ存あす取るう即 日人  
藤の中が傍くや影の雲 茶静  
藤や花衣へむくきて何通す 風朗

麻の子

麻の子やまきもくまう淋し 八茶  
おしぬも雪はあまう麻の子は 茶静  
盆おてらお入るのほく麻の子は 一色  
赤身居目あはまき麻の子は 素衣

照射

ふもついで心深かぬとせいかま 八茶  
さしついで心深かぬとせいかま 一具



お枝身

温泉の山へ行きてお枝身  
おぬきもえりし神垣越えまろ  
茶静  
久臧

水鶏

船中よはくを磯崎よ啼り鶏  
意くといせせておしるも鶏哉  
啼りぬありこて後水鶏うま  
かきわけて暮るそよのかすお鶏い  
素忠  
う布  
唯令  
史子

浮巢

親をぬかちわういる浮巢い  
かいらもほもええて浮巢い  
やて来てえけす度る浮巢い  
本坊へ通すもけう記巢うま  
風朗  
ハ朵  
史子  
う布

蟬

夏の蟬はんもくも啼まろ  
桐の本や雨の流る蟬の枝  
久臧  
素忠



初燗や格をさつて燗し汁 風朗  
燗の奔人の夕新も来より 一色  
燗啼や漱下村を打明けて 茶新

五月書

下系や一梅つは月やみ 一蕙  
蕙ふやてかゝてあゝや五月書 風朗

五月雨

空解と泉を利根の五月雨 素苾

さ月日は涼更上戸つる水より 万布

さ月雨やと味縁や五月雨 八奈

さ五月雨や蒜つる人 遠入口 史子

豊日ときよ始末もけう五月雨 一蕙

杉風とかつて仕とつや五月雨 洞天

五月雨や伽よな五月雨 素苾

あゝ院内は舎りて

けりけり胡戸葉を五月雨 史千







友如月隣の庭へ入よけり 茶静

昔あけおてしおむ本信や友の月 一蕙

持押子信かきし心や友の月 洞天

船下を竹續き影く友の月 一色

風蕙

海をよみし物所やうゆ蕙る 一貝

手桶よみ月とう江う風蕙る 洞天

地ちうせきり雲う風蕙る 一蕙

春嵐

道ちう子終ふにぬきほろし 茶静

本乃々茶語をえなう春嵐 風朗

鶯如子のほふうり行や春嵐 久臧

押へし雲思うて雲も春嵐し 風朗

川信よ流きて波や春嵐し 唯令

文川

文川やめし椀少る岩の洞 茶静



巾一井

日らとせとらし一井の清き水あり  
久減  
さし井や豊はちうけ佛の目  
一蓋

清水

池越え清き水入ぬき一羽  
素志  
瓶より水おとせぬ清き水あり  
ハ菜  
可水は来てとまぬ清き水あり  
史子  
一里の水はまきれぬ清き水あり  
唯令

浦口の住人も清き水あり  
う布  
うそつぬ人の墓はうら清き水あり  
一白

暑

水底は暑きと見え小舟哉  
唯令  
海の水はぬれを暑に産む  
一蓋  
暑はくせりぬあつたな  
風朗  
襟巻はちうけぬ暑き根絶  
一白  
むつがしや暑きをうけぬ来  
史子



唐ぬけは暑や浅間の石はてる 茶抄

初ねる暑記をたえさうきり 八奈

暑く又かき熱暑や人の中 久臈

暑き口は毛口上れ見ぬる 素志

土用 夏

折つれて土用は入也空の神 洞天

来る夏を通す事記や谷中門 唯令

かゝれなき夏人あうむらぬの う布

又 立

ふ雨は素子うゆくや涼きうち 洞天

ゆつとや唐崎らとやぬるや西 う布

夕しらは暑うらとなきやもの香 一蕙

夕立や口暑くふき新川原 一色

蓮の花

蓮は香をけそいて来は竹いれ 久臈

まなうふ蓮は蒼や福光り 史子



ちり新のえつてしつとや蓮の糸 碓令  
底深く堪晴なり蓮の糸 一糸  
人新のえつとくくく蓮の糸 八糸  
福挽くはあつとくく蓮の糸 史子  
是代古蓮の糸あり角樽 一糸

文野

赤い糸は咲て似つぬる野哉 碓令  
秋をたせ福を越えぬる世に う布

登歌

むら糸や式尺志さるる山の麓 風朗  
むら糸や薄き雲よりはれさる 八糸  
むら糸やかきと合ふる延けり 仰天  
むら糸や一輪曇る雲の中 一蓮  
むら糸や尾上の杉々枯るる 糸野

夕糸

出てくるとゆふ糸咲や花の跡 一糸



夕顔のふゆがくちやく梓るれ 久臧  
ゆふや蟹喰ふてわき岸の妻 八奈

青田

洛外お町よ廻入喜田よま 一色

小碓川よく

凡となつてしまふ入喜田よ 風朗  
切破風よ位少くえき喜田面 雉令

川狩

川狩やあつちまおの人のあつち 久臧  
川狩や人のあつちをえてけう 史子

火取虫

やうと虫取あつちてあつちうらう 風朗  
火取虫あつちつてあつちうらう 布  
恙なくよ取虫あつちつてあつちうらう 洞天  
言つてあつちあつちあつちあつち 風朗



夏夜行

夏夜や閑けふ川石傳ひ  
茶静  
了あそけふ娘居るや良の汗  
史子

鮎 沖繪

鮎

その言ひて一羽忘れし沖繪  
久臧  
心と半は命免てし沖の鮎  
一蕙  
いさよ言ふ鮎と青麗をそとる  
久臧

納涼

橋涼の衣紋垂しそわれあり  
一色  
船うねすみ恋しそ土手あり  
史子  
扇つくさあさなるとさうゆら涼  
久臧  
夜涼のやゆきし小橋又一渡き  
仰天  
紫豆をつらみな度さすみぬ  
素志  
清くは船きり遠く涼のかま  
日人  
も恋して来て枕さすみ哉  
風朗



涼

涼—きや取つちろよほろ芸 茶静  
 来—道とえてす—の二階は 洞天  
 涼—きや思ふまへゆくも何— う布  
 す—巾よ曳さひく移は藤は 洞天  
 空の辞又涼—き柱はけり 素衣  
 梵火—く涼—うえや茶を以 八茶

簞

僧正おれぬむろきや—のむ—ろ 一蕙  
 圓—れぬ醫者のそふ—やたむろ 一色

葛水心太

ま業凡

葛あみせを—とおきそほ—よほ 日人  
 區安の傍能りきりとちうてん 一色  
 じや寸うら和歌十うき業凡 久藏



雪の出峰

ぬきわく芦を根うしてきれ峰

系志

雪のまゆかやさかきつてきりゆく

仰天

雪うして歩ち日かなき雪の峰

史子

不二詣

正月の爰れけりやふ二詣

一巻

小田原に醫者の爰れよふ二詣

一巻

つれづれやえて後きやふ二度り

八束

茅の抽

う町の茅の抽大ききち米よき

一巻

ひきら芦よかきせてくふちのわら

白人

従う人々くらん仕着るきりあは

史子

かきこら誰れぬきれ抽哉

八束

渚枝

居きこを枝かきつるみそ記る

八束







